

学習会報告つづき

- ①の写真・・・プラスチックのコップに墨汁を入れ、タコ糸を浸しハガキで挟み引く。
②③の写真・・・会員の作品です。墨汁と絵の具での二色刷り。

美術の秋一会員の展覧会あれこれ

『鈴木武志さんの作品は「ゾーンシテム研究会 第25回写真展 光の探求」(11/4~10 新宿・アイデムフォトギャラリー シリウス)への白黒写真です』『ドライフラワー』と題する作品は、一見葉と見間違え乾燥した花弁が上下4枚ずつ2段に並べられた写真です。あいにくと写真は撮れませんでした。白と黒の微妙なバリエーションが魅力的な作品でした。

安川和恵さんは「第47回現代画展」(11/10~16 上野・東京美術館)に会友として出品、「deva」と題された女性の肖像です。はんの会展に出展した「サヨコ」を彷彿とさせるシンプルで力強い作品で長い黒髪と紅の服、髪と服の織りなすストライプ模様にあわせ、単純化された黒の目鼻立ちが印象的でした。背景の青地に浮かぶ泡のような模様が版画的と感じました。(文責 安田)

(お知らせ)

新年会の予定について

昨年度、行われなかった新年会を下記の通りに行いたいと思います。なお、参加は希望者のみです。状況により中止になる場合もございますのでご了承下さい。

- * 日時 1月9日(日) 12:30~15:00
- * 会場 「鉢の木」
- * 会費 5,000円(予定)

会員の動静

- ・ 安川さん : 大変残念ですが多忙につき、出席困難のため退会。これからのご活躍を楽しみにしております。

はんの会 事務局

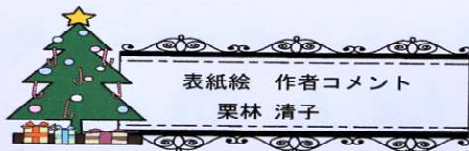
〒272-0062 船橋市坪井町600-29
安田 彰 Tel・Fax 047-464-6870
ホームページ : www.hannokai.net

はんの会

No.242



表紙絵 栗林 清子
2021年12月1日発行



題名 STAR DUST NIGHT

- ① 輪郭はコロジオン原紙、プラスチックヤスリに2Hの鉛筆で製版こげ茶色で刷る。
- ② 星・月の飾りを黄色で刷る。
- ③ 空の青をローラーボカシにして、黄色プラス青で緑の一部を刷る。
- ④ 赤を重ね、赤と紫、濃い緑を刷る。
- ⑤ 全体の足りないところに、コロジオンに抜き液で描きタンポでしあげる。全体を乾かす。
- ⑥ 薄くメジウムに銀を入れてローラーで塗り、化粧用のグリッターと銀で箔振りをする。

12月の学習会について

日時 12月12日(日) 場所 初台市民会館

■ 午前の部 (10:00~12:00)

- 12月表紙絵の制作プロセスと解説 (担当 栗林)

■ 午後の部 (13:00~16:00)

- プラスター刷り (担当 姫井)

コロジオン原紙によるプラスター刷りを、紅型風の図柄を使って行います。

(持ち物)

印刷道具一式(ローラーは使用しません)・コロジオン原紙・抜き液
小筆・透明フィルム・ハガキ・あればアイスのスティック棒・鉛筆

11月の学習会報告

■ 午前の部 (11:00~12:00)

- 表紙絵10月号の解説「ナンキンハゼと小鳥」(中野)

展覧会の準備に加え、家の改築も重なって、このところ忙しくて手が回らなかった。そこで、展覧会作品の「鳥さんは唄う」をいかし、黄色の鳥は同じものを再利用した。また秋の雰囲気を出すべく、ナンキンハゼは新規に追加、背景のページは以前に講習会で紹介した紙版画(凸版)で制作、孔版と違った味わいがある。版画は一枚だけの絵とは違って、こうした「リサイクル」が可能な点がいい。

- 表紙絵11月号の解説「白文鳥」(姫井)

つばきの中の文鳥を、円形縁を生かして、シンプルかつカラフルに描いた作品。得意なガリ版を駆使して7色7版刷り。多色の線が重ならないようにトンポ(位置合わせ)をしっかりと書き込み、慎重にやった。太目の鉄筆を使ってXAで製版したが、更に太い線を表現するため、典具粘紙を貼り重ねて刷った。典具粘紙は、心づつ、主線をほかすために一回目はごく薄い絵の具で刷って透ませ、そのあとに濃い絵の具で本刷りを行う。しかし、今回は、初めから濃い絵の具を用いて一回刷りで表現した。この処理方法は斬新。

■ 午後の部 (13:00~15:00)

【紐(糸)版画】 担当 中野

- タコ糸に墨汁や絵の具を染まし、2枚のハガキの間にタコ糸を挟みます。
- 上からはハガキを手で抑えながら、タコ糸の片方を引く。

タコ糸を引くことにより、挟んだハガキにタコ糸についた絵の具が色々なバリエーションで、写真のような模様になる。絵の具は、着けすぎないほうが良いようです。



① ② ③